

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12459

研究課題名（和文）占領期における米軍外国人妻の婚姻をめぐる比較研究 ハワイを中心に

研究課題名（英文）A Comparative Study of Marriages of Foreign Wives of U.S. Military Officers and Personnels during the Occupation in Hawaii

研究代表者

茶園 敏美（Chazono, Toshimi）

京都大学・人文科学研究所・人文学連携研究者

研究者番号：60738748

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究における占領兵と占領地女性との婚姻は、占領地女性を対象に日本のみならずアジアおよびヨーロッパ各地で行われた性病対策という占領政策に占領地女性を位置づけて連動して考察した。その結果、国際結婚で本国を出国し外国に入国した主な要因は、現地女性の本国での家父長制からの脱出であることを、本研究の研究成果として見出すことができた。

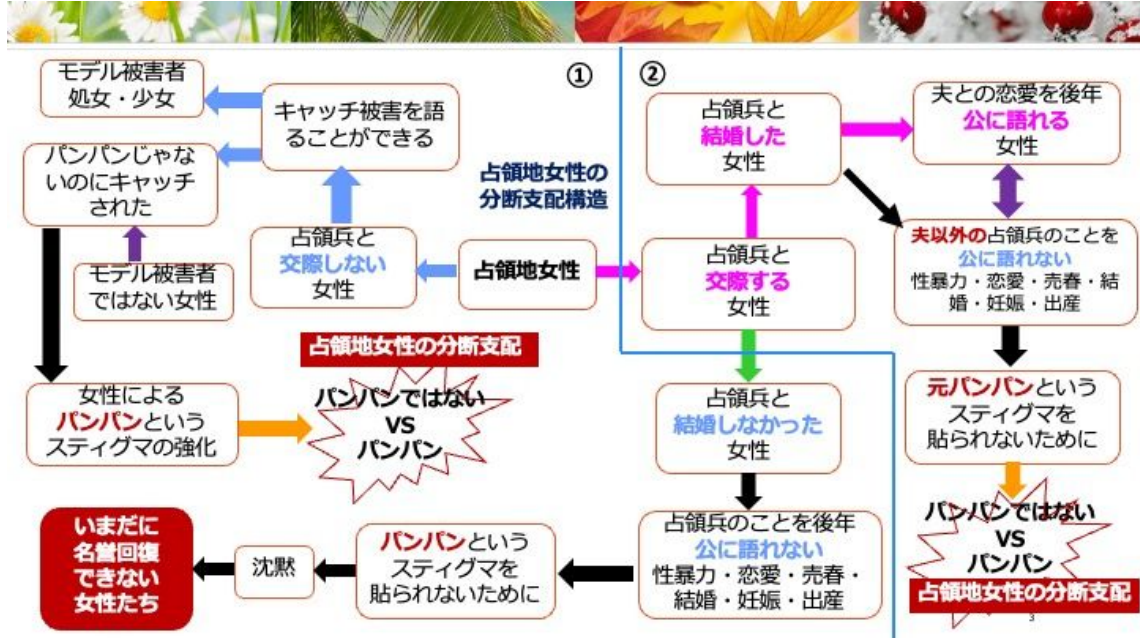
研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の独自性と創造性は、大きく3点ある。まず占領期にハワイに渡ったアジア、ヨーロッパ出身の米軍外国人妻を比較分析することで、占領政策としての婚姻の地域ごとの特色が明らかになる。次に、米軍の占領地域を日本に限定するのではなく、アジア、ヨーロッパといった広範囲の地域に注目することで、占領政策を婚姻という観点から体系化できる。最後に、調査対象の304名の米軍外国人妻のインタビュー調査を精査することで、占領政策に回収されない部分が明らかになる点である。以上3点に注目することで米軍の占領政策による女性たちへの「分断支配」を覆す可能性に繋がる。この可能性は、占領地女性同士が手を取りあう可能性である。

研究成果の概要（英文）：In this study, marriages of Foreign Wives of U.S. Military Officers and Personnels were examined with the occupation policies of taking measures against venereal diseases, which were implemented not only in Japan but also in other areas of Asia and Europe for women in the occupied territories. As a result, it was found that the main factor of international marriage leaving the home countries and entering foreign countries were the escapes of local women from the patriarchal system in their home countries.

研究分野：ジェンダー

キーワード：ジェンダー 米軍外国人妻 占領期 性病対策 占領兵 占領政策 比較分析 ハワイ



1. 研究開始当初の背景

本研究はこれまで、第二次世界大戦後の占領期における占領地女性の分断支配構造に注目し、2019年度最終の科研基盤研究Cまでの研究では、占領地女性の占領地内の女性に注目した(上記図の範囲)。具体的には、間接統治日本本土の占領期から駐留期にかけてGHQ(連合軍総司令部)に属するPHW(公衆衛生福祉局)が実施した強制的性病検診に注目し、間接統治の日本本土における強制的性病検診は、占領地のさまざまな女性たちへの性暴力であることを明らかにしてきた。と同時に、「予防」と称し実施された強制的性病検診は、女性たちの身体を「規律/管理」する政策であったことも見出した[茶園 2014, 2018ab]。



強制的な性病検診とは、MP(米軍の警察)や日本の警察から、「性病を米兵にまき散らしている「パンパン」(売春婦)と疑いをかけられた女性たちが、衆人環視のもと強引にトラックの荷台に乗せられ、警察や病院で強制的に局部検診を受けさせられることをいう(左写真参照[毎日新聞社提供])。実際は、あらゆる女性たちへの強制検診が日常化していた(12歳~72歳『毎日新聞』大阪版 1946年8月21日、GHQ一次資料の強制検診データ [茶園 2014, 2018ab])。

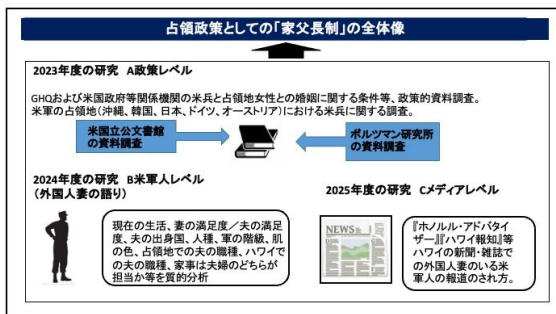
GHQ主導の強制検診は、占領期専門の研究者の間では性暴力であったという認識が広まってきているものの[奥田 2007]、世間では性病検診自体、ほとんど知られていない。性病検診の被害者が自身の尊厳を奪われたまま今でも沈黙を守っているのは、強制検診の被害者だったと名乗り出ること、占領軍将兵相手の「パンパン」であったと世間の厳しい視線にさらされるため、名乗り出るのはむずかしいという問題があることを研究開始当初の背景として見出した[茶園 2014, 2018ab]。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次世界大戦後の占領期に沖縄や日本を含むアジア地域およびヨーロッパ地域で、占領兵としての米兵と正式な婚姻手続きを踏みハワイへ渡米した米軍外国人妻の婚姻を占領政策のひとつと捉え、婚姻の視点から占領政策を明らかにすることにある(上記図の範囲)。

3. 研究の方法

研究期間内に A 政策レベル、B 当事者レベル(米軍外国人妻の語り)、C メディアレベルの3点を明らかにする。この3点の関係を図式化すると左図のようになる。



A. 政策レベル

GHQの資料および米国政府関係資料等で米軍の占領地域であるアジアやヨーロッパの占領地女性と米兵との婚姻に関する軍の条件を比較考察する。

さらに米軍のヨーロッパ占領時の占領地女性の状況をボルツマン研究所(ザルツブルグ)の資料等で考察する。調査対象地域は、オーストリアとドイツである。

B. 当事者レベル(米軍外国人妻の語り)

ハワイ大学マノア校ロマンゾ・アダムズ社会調査研究所所蔵 304 名の米軍外国人妻の聞き取り調査(1950 年前後の調査。すでに入手済)を、徹底した帰納法分析で調査分析を行う。

ハワイ日本文化センターでも聞き取り調査を実施する。

C. メディアレベル

『ホノルル・アドバタイザー』、『ハワイ報知』等ハワイで広範囲に民間人に親しまれている新聞・雑誌における 1940 年代～1950 年代の米軍外国人妻の報道のされかた、読者投稿欄にも注目し、当時の渡米先ハワイのひとびとの反応を比較検討する。

4. 研究成果

本研究における占領兵と占領地女性との婚姻は、占領地女性を対象に日本のみならずアジアおよびヨーロッパ各地で行われた性病対策という占領政策に占領地女性を位置づけて連動して考察した。その結果、国際結婚で本国を出国し外国に入国した主な要因は、現地女性の本国での家父長制からの脱出であることを、本研究の研究成果として見出すことができた。

ここで、3 年間(2020 年度～2022 年度)の研究成果を年度ごとに記す。

2020 年度

学会・シンポジウム等

(1) 占領地女性と GI との親密性と占領軍の性病対策 グアム・沖縄・日本の事例からみえてくるもの「開国の前線に立つ女性たち - 近代の性売買におけるインターナショナルリティ - 」シンポジウム 2020 年 10 月。

(2) 「パンパン」といわれた女性たちの生存戦略「占領と性」シンポジウム, 北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター主催, 北海道大学 2020 年 10 月。

(3) 占領初期における米軍の性病対策「パンデミック期に再考する社会運動 - フェミニスト歴史学者の視座から」ジェンダー史学会第 17 回年次大会 2020 年 12 月。

Misc

(1) 「パンパン」から考える占領下の性暴力と差別 戦後 75 年、今も変わらぬ社会 毎日新聞社の取材記事 WEB 版 2020 年 8 月 14 日

(2) 女性差別占領下の教訓 戦後 75 年 毎日新聞社の取材記事紙面版 2020 年 8 月 31 日夕刊

本インタビュー記事により、占領期当時のことを記憶されている生き証人のかたがあらたに横浜で現れ、占領期当時のことを証言していただいた。

2021 年度

学会・シンポジウム等

(1) 第 3 部「ミソジニー(女性嫌悪)と女性差別による問題と課題」のコメンテーター

Ms. Kim Soo-Ah ソウル大学「女性」の観点から考察する日韓社会の課題 日韓国際シンポジウム 2021 年 8 月。

(2) 5 年間比較ジェンダー論を担当して

教養科プロジェクト実施報告 第 4 回研究会「社会的公正をめざす教育に関する研究『ジェンダーとダイバーシティ』」2021 年 9 月。

Misc

(1) 「パンパン」たちの生存戦略と「わきまえないおんなたち」の生存戦略『平和運動』917(602) 23-32 2021 年 6 月。

2022 年度

学会・シンポジウム等

(1) 占領期におけるパンデミックのスティグマ再考—米軍の性病対策を手がかりにウィズコロナ時代の「生存戦略」を考える 第 48 回日本保健医療社会学会大会 2022 年 5 月。

(2) 性暴力、フラッシュバックの問題(聞き手のポジションリティや経験への配慮)と女性/男性教員のポジションリティ 日本女性学会 2022 年大会 2022 年 6 月。

(3) 日本女性学会のワークショップ参加者アンケートの集計結果報告(クローズド)ジェンダー教育ネットワーク発展的研究会 日本女性学会ワークショップの成果から考える、大学におけるジェンダー教育の困難とより良い実践へ向けてジェンダー教育ネットワーク【WAN 上野ゼミ】2022 年 9 月。

(4) パンパンとは誰なのか 占領期を生き抜いた女性の生存戦略 東京女子大学日米比較研究の授業のゲスト・スピーカー 2022 年 10 月 11 日。

Misc

(1)書評：佐藤文香著『女性兵士という難問 ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』慶応大学出版会 2022年 認定NPO 法人WAN オンラインジャーナル 2022年8月

(2)強制的性病検診をめぐるGHQの内部論争 大阪保険医雑誌 8・9月合併号 (672) 12-16 2022年8月。

本研究期間中はコロナ禍およびソ連のウクライナ侵攻にともなって、海外調査はやむを得ず断念するに至った。したがって本研究期間は国内調査、先行研究の考察および入手済の資料分析に集中した。

国際政治学者シンシア・エンローの、「軍隊と国家は密接な関係にあるため、軍隊は他の家父長制的制度以上のもの」[Enloe 2006]という考えを踏まえるなら、本国の「家父長制」から逃れて国際結婚を果たした米軍外国人妻は、「軍人の夫を支える妻」役割を軍隊から期待される点において、本国より厳しい軍隊の「家父長制」に組み入れられたことになる。しかしながら、2020年度～2022年度基盤研究Cの考察結果では、夫や子どもとの結婚生活を円滑に営んでいる米軍外国人妻も多い。そこで、夫である米軍人の「家父長制」に対する考えを考察する必要性が出てきた。

軍人経験のある社会学者ハイゲートは軍隊の職種に注目し、身体的にタフでプレッシャーにさらされても理性を発揮する特殊空挺部隊から、家庭的ニーズに応じる将校宿舎担当係までは連続体をなしていることを明らかにし、これまでの一枚岩的な「軍事的男性性」の特殊化を覆した(Higate 2003)。ハイゲートの理論を踏まえると、軍隊における職種のジェンダー役割は流動的に変化しているはずであり、この連続体は、米軍人と外国人妻の家庭で「家父長制」がどの程度影響しているかを考える手がかりとなる。本国の「家父長制」から逃れた米軍外国人妻たちが渡米先のハワイで軍人妻として円滑に結婚生活を営んでいることに注目するならば、軍隊の夫の職種に注目することで流動的なジェンダー役割を夫が経験したか否かに注目することで、軍隊の「家父長制」も一枚岩ではなく、占領政策に回収されない部分があると考えられる。

こうしたあらたな疑問点への考察は、2023年度～2025年度基盤研究C「占領期における米軍外国人妻の家庭の比較研究 「家父長制」の視点から」で明らかにする。

引用文献(アルファベット順): 茶園敏美 2018『もうひとつの占領 セックスというコンタクト・ゾーンから』インパクト出版会, 茶園敏美第5章「セックスというコンタクト・ゾーン - 日本占領の経験から」上野千鶴子・蘭信三・平井和子編 2018『戦争と性暴力の比較史へ向けて』岩波書店所収, 茶園敏美 2014『パンパンとは誰なのか キャッチという占領期の性暴力』インパクト出版会. Enloe, Cynthia, 2000, *Maneuvers, The International Politics of Militarizing Women's Lives*, Univ.of California press, Higate, Paul R., 2003, "Soft Clears' and 'Hard Civvies': Pluralizing Military Masculinities," Paul R. Higate ed., *Military Masculinities Identity, and the State*, Praeger. 奥田暁子, 2007, 「GHQの性政策 性病管理か禁欲政策か」, 『占領と性』イパ°外出版会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 占領初期における米軍の性病対策
3. 学会等名 ジェンダー史学会第17回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 「パンパン」といわれた女性たちの生存戦略
3. 学会等名 占領と性」シンポジウム, 北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター主催（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 占領地女性とGIとの親密性と占領軍の性病対策 グアム・沖縄・日本の事例からみえてくるもの
3. 学会等名 占領地女性とGIとの親密性と占領軍の性病対策 グアム・沖縄・日本の事例からみえてくるもの
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 占領期におけるパンデミックのスティグマ再考ー米軍の性病対策を手がかりにウィズコロナ時代の「生存戦略」を考える
3. 学会等名 第48回日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 性暴力、フラッシュバックの問題（聞き手のポジショナリティや経験への配慮）と女性／男性教員のポジショナリティ
3. 学会等名 日本女性学会 2022年大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 日本女性学会のワークショップ参加者アンケートの集計結果報告（クローズド）ジェンダー教育ネットワーク発展的研究会 日本女性学会ワークショップの成果から考える
3. 学会等名 大学におけるジェンダー教育の困難とより良い実践へ向けてジェンダー教育ネットワーク【WAN上野ゼミ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 茶園敏美
2. 発表標題 パンパンとは誰なのか 占領期を生き抜いた女性の生存戦略
3. 学会等名 東京女子大学日米比較研究ゲスト
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------